

木末は花の得たりがは いざや歌へよ鶯よ』

昨日の雨は今朝はれて 庭はあやめに杜若

池はをどれる鯉のむれ いざや泳よわく子らよ』

錦衣よそはふ龍田ひめ われらを待るあの姫と

こさ紅の衣をさて いざや遊べよ小女らよ』

まどの光におどろきて 見れば嬉しき銀世界

雪をまろめて戦を いざや始めん同胞よ』

遊 漁

東 く め 子

芝の浦邊にしばくも ちろす手操と引く綱と

何れも今日は満潮の 舟にも余るうをのかず

子

佐々木信綱

海見ゆる窓の手すりに寄りそひて

幼なはらから白帆かぞふる

賤がやのせとに遊へるにはとりの
中にまじりて遊ぶ子らかな

花かけの芝生にねふるをさな子の

夢をまもりて舞ふこ蝶かな
川中におきならべたる石のうへを

飛びくこゆる里の子の群

うせし子が遊びし森の草のはな

またこの春も花さきにけり
篠 崎

よその子は學びさかりの年頃を

一人のわ子にしゝみ賣らする
雪 田 土 雄

都より世つきのをの子歸り來て

手いれとゝのふ村をさの家
佐藤朝恵子

子らは皆かへりゆきたる學ひやの

夕べの庭にさくらちるなり

松島をとひて 布 士 の 舍

松島のどろ水灣はさておきぬ

一眸千里松島の景